

小学校音楽科教科書における創作活動のねらいとその変遷

—平成元年以降に着目して—

岡 崎 藍

(本講座大学院博士課程前期在学)

Aims and Changes Related to Music Making in Elementary School Music Textbooks after 1990

Ai OKAZAKI

Abstract

The purpose of this study was to clarify the aims of music making as defined in elementary school textbooks published in Japan in 1992, 2002, and 2011 and to trace the historical changes in the textbooks' contents. From this analysis, two facets emerged. First, two goals appeared in the textbooks with regard to music making: that of establishing music-making objectives, such as developing musical skills and musical appreciation; and that of experiencing the actual activity of making music. Second, the emphasis today is on the latter—experience-oriented music making as a goal.

I. はじめに

研究の背景

音楽科における創作領域は、様々な取り組みを模索し、提案してきた流れをもつ。平成元年から導入された「音楽をつくって表現できるようにする」活動が、平成20年改訂の学習指導要領においては「音楽づくり」として新たな方向に定義付けられたことは、近年の大きな変動といえる。

島崎（2005）は、平成元年度改訂の学習指導要領によって、即興表現や自由な発想による音楽づくりへの関心が高まり、自由な音楽づくりの実践が、音楽教育の世界で市民権を得るものとなったとした¹⁾。平成10年度の改訂では、子どもの創造的な表現力の育成に着目した具体的な表記がみられ、楽しみながら無理なく即興表現や創作活動が行えるよう配慮がなされていると捉えている。しかし、実際の活動において、効果音づくりに陥ってしまったり、音楽の「学力」や「基礎基本」が身に付かないなどの課題が挙げられるようになった²⁾。

創作領域に関わる多様な活動や教材については、分類分けが示されている。島崎（2009）は音楽づくりの活動を11に区分し、それぞれの活動によってつくられる音楽づくりの作品について「Ⅰ：描写的な音楽づくり」「Ⅱ：音響構成的な音楽づくり」「Ⅲ：音楽の構成要素による音楽づくり」の3つのタイプがあるとした³⁾。松永（2007）は平成17年に出版された教科書における即興表現に該当する教材について「(a) 映像的イメージを媒介とした即興表現について」「(b) 音楽物語の扱いについて」「(c) 歌に合わせて音を入れる活動」「(d) 鑑賞教材の関連」の4つに分類を行っている。創作領域における作品や活動、教材に関する分類については様々な検討がなされているが、そもそも創作領域を取り扱うねらいはどのようなものとなっているのであろうか。

本稿では、平成元年以降の小学校音楽科教科書における創作領域においてどのような目標やねらいが意図されているのかを明らかにし分類するとともに、その変遷をたどることを目的とする。教育出版の平成4年・平成14年・平成23年出版の教科書を対象とする。

Ⅱ. 学習指導要領における創作領域の内容とその変遷

平成元年改訂学習指導要領の「A 表現」のなかに「(4) 音楽をつくって表現できるようにする。」と明記され、創造的音楽学習⁴⁾の考えを取り入れた新たな音楽教育の方向性が示された。

平成10年告示の学習指導要領では、創造的な学習活動の一層の充実が求められるとともに、「楽しむ」という側面が加えられたことが特徴といえる。

平成20年改訂の学習指導要領では創作活動の総称として「音楽づくり」と定義され、歌唱や器楽と並ぶ表現活動の用語として位置づけられた。これまで小学校における音楽づくりの実践には、物語に効果音を付けるという活動がみられてきたが、「音を音楽にする」「音楽の仕組み」といったキーワードから、平成20年改訂の学習指導要領では、単なる効果音から脱却することが期待された。「音楽の仕組み」とは新設された【共通事項】の内容を具体的な手がかりとしている。「音楽づくり」は、それらをつかって児童が「思いや意図をもって」音楽をつくることを意図している。

Ⅲ. 教科書における創作領域を含む活動のねらいについて

1. ねらいの分類

教科書及び教師用指導書の記述をもとに、創作領域の内容を含んだ活動のねらいについて以下の6つの視点で分類する。

- ①音遊び（音、音色に対する感覚を養う）②音づくり（効果音）③音楽の基礎的な知識・技能の定着
④表現の工夫 ⑤音楽づくり（ふしづくり・リズムづくり）⑥体験・経験（音を用いて楽しいと感じるなど）

①音遊びは、音や音色に興味を持たせ、それらに対する感覚を養うことを目的としているものとする。一方、同じく音を扱う活動であっても、そのねらいがつかったり表現したりすることにある場合は、②音づくりに含まれるものとする。③音楽の基礎的な知識・技能の定着は、拍子やリズムといった音楽を行ううえで基盤となる諸要素や、鍵盤ハーモニカやリコーダーの演奏技術をみにつけることをねらいとしたものとする。④表現の工夫は、イメージをもとに表現を工夫することをねらいとする。⑤音楽づくりは、ふしづくりやリズムづくりに加え、旋律やリズムパターンといったモチーフ及び楽器のアンサンブルなど構成や組み合わせを工夫する活動をねらいとするものとする。ただし、音色に着目し音の組み合わせによって表現する活動は②音づくりに含まれるものとする。音楽活動の楽しさを感じ取ったり味わったりすることをねらいとしているものは⑥体験・経験に含まれるものとする。

2. 平成4年出版教科書：活動のねらい

平成4年出版の教科書及び教師用指導書の記述をもとに、創作活動を含む題材（主題）のねらいを上記の6区分で分類し以下の表にまとめた。

表1 平成4年出版 創作活動を含んだ題材のねらい

学年	主題名	指導目標	分類
1年	どうぶつとなかよし	象や小鳥など、動物が登場する音楽に親しませ、音楽の楽しさを感じ取らせる。	①⑥
	たのしいおとまね	歌詞の感じを出すために雨の音やそのほかの自然の物音をまねて表現する楽しさを経験させる。	②⑥
	リズムにのって	拍の流れにのって、リズムを打ったり、合奏をしたりすることができるようにする。	③
	ようすをおもいうかべて	生き生きとした様子を思い浮かべながら音楽を聴いたり、表現したりする楽しさを経験させる。	④⑥
	すてきなおとづくり	出したい音色のイメージをもって楽器を演奏し、合奏することができるようにする。	②
	がっきでたのしく	楽器で表現したり、楽器の表現を聴いたりして、楽器による音楽表現の楽しさを経験させる。	②⑥
	おおきなおとちいさなおと	音の強弱に反応したり表現したりする楽しさを味わわせる。	③④⑥
	こえをそろえて	みんなで声をそろえ、気持ちを合わせて歌う楽しさを味わわせる。	⑥
2年	ゆかいな音	擬音風の表現の面白さを感じ取らせる。	②⑥
	たのしい音づくり	歌に合わせて宇宙船の様子やロケットの飛ぶ様子を楽器で表現し、創造的な音楽表現の楽しさを感じ取らせる。	②⑥
	いろいろな音	音楽に限らず、楽器の音や身の回りの物の音に注意して耳を傾けるようにし、広く音の世界の楽しさに気づかせる。	①
	うたのおいかげっこ	輪唱曲の歌が追いかける楽しさや声が重なるおもしろさを経験させる。	③⑥
	虫となかよし	秋の虫の歌を歌ったり、創造的に虫の鳴き声を表現したりする活動を通して、生活に身近な音楽の楽しさを感じ取らせる。	②⑥
	リズムにのって	拍の流れにのって打楽器を打ったり情景を想像したりして、音楽の流れを感じ取る能力を養う。	③
がっきでたのしく	みんなで気持ちを合わせて合奏する楽しさを味わわせる。	⑥	

2年	こえをあわせて	歌詞の意味を理解したり旋律の美しさを感じ取ったりしてその歌の気持ちをとらえさせ、心を合わせて表現する楽しさを味わわせる。	④⑥
	きせつのうた	季節を感じながら歌う楽しさを味わわせる。	④⑥
	ようすをおもいうかべて	歌詞の表す情景を想像して歌ったり情景を想像しながら音楽を聴いたりして、音楽的な想像力を豊かにさせる。	④
	みぶりのくふう	ある姿になったつもりで歌う速さや身振りなどを工夫して表現する楽しさを体験させる。	④⑥
3年	たのしいリズム	音楽を聴いたり歌ったりして、音楽のリズムの楽しさを味わわせる。	⑥
	リズムによって	4拍子や2拍子のリズムによって、リズム伴奏を工夫しながら楽しく歌わせる。	③④
	楽しい歌声	外国の子供の歌を聴いたり、交互唱やリコーダーのオブリガート変化を付けて歌ったりして、歌唱の楽しさを味わわせる。	③⑥
	楽で楽しく	既製の楽器や身近にあるものを使った楽器で、創造的な学習活動をさせ、合奏の楽しさを味わわせる。	②⑥
4年	ふしの感じ	曲想に合った歌い方を工夫する。楽器の音色に親しませる。	①④
	リズムによって	曲想に合わせながら、はずんだ声やなめらかな歌い方を工夫させる。	④
	かしを生かして	旋律を大切に、情景を想像しながら歌わせる。	④
	ひょうしに合わせて	おどりのリズムによって歌ったり、楽しく聴いたりさせる。	③
5年	気持ちをこめて	音の重なり的美しさを感じ取って、曲想にあった歌い方を工夫させる。	③④
	楽しい音づくり	いろいろな楽器や想法を工夫して、北風の音を表現させる。	②
	歌おうりんしょう	互いに聴きあって、音の重なり的美しさを感じ取らせる。	②
	がっそうと歌おう	和音伴奏の工夫をしたり伴奏の順序の組み合わせも工夫しながら、バランスのとれた合奏付き合唱をさせる。	④
6年	気持ちを込めて	歌詞の内容を理解し、フレーズの塊を意識し、よく聴き合いながら美しい響きで2部合唱させる。	④
	ひょうしに合わせて	拍子やリズムに気をつけ歌詞の内容を理解して、やさしい気持ちで歌わせる。	③④
	がっそうと歌おう	歌を生かす楽器伴奏を工夫したり発声・曲想・ハーモニー・ダイナミクスに気をつけて合唱したりしながら、バランスのとれた合奏付き合唱をさせる。	④
	ふしを生かして	言葉や旋律の美しさを感じ取り、強弱を工夫し美しい発声で合唱させる。	③
6年	気持ちをこめて	歌詞の感じをよく味わい情景を想像し、それぞれの節の感じを生かし、気持ちを込めて表現させる。	④
	気持ちをこめて	歌詞の感じを生かし、気持ちを込めて歌わせる。	④
	ようすを思い浮かべて	情景を想像し、ふしを口ずさませながらオーケストラの音楽やシンセサイザーの音楽を聴かせる。	④
	合奏と歌おう	3拍子のリズムにのり、工夫した合奏の伴奏で楽しく歌わせる。	③④
	声をそろえて	明るく響きのある声ではぎれのよいリズムによって、のびのび歌わせる。	④
	リズムによって	6/8拍子のゆるやかなリズムによって、3度の美しいハーモニーを味わいながら、フレーズ豊かに合唱させる。	③
	歌の心	歌詞の内容を理解し、情景を想像しながら、心を込めて響きのある声で合唱したり、日本歌曲を鑑賞させたりする。	④
	日本のふし	ふしの感じを味わいながら、演奏したり鑑賞したりさせる。	④
音のびびき合い	主なふしを口ずさみながら、オーケストラの素晴らしい響き合いを味わって鑑賞させる。	④	

指導目標の文によっては、複数のねらいが含まれているものもある。拍子やリズム、音の重なりなど音楽の諸要素についての言及が多くみられる。

次に学年別にグラフで示す。

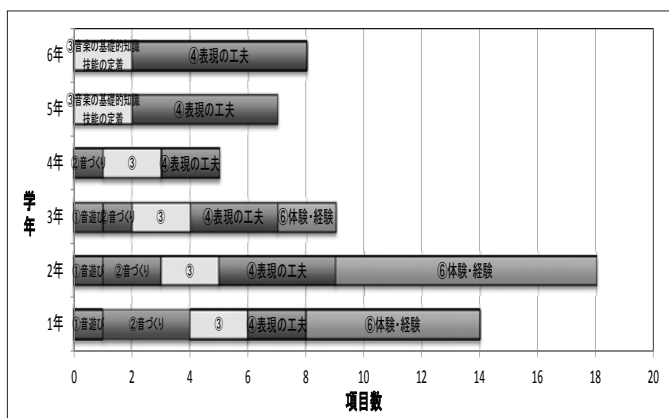


図1 各学年におけるねらいの内訳

全学年を通して拍の流れや強弱、音の重なりなどの音楽の諸要素に関する記述と(③に該当)、④表現の工夫がみられる。また、1～3年生までは、音に対する感覚を養うための①音遊びや音楽活動の楽しさを⑥体験・経験することを目標とする題材がみられるが、高学年以降は、③音楽の諸要素と④表現の工夫に集約される。また、目標において3年生で「創造的な学習活動をさせ」と書かれている。実際の活動内容から②音づくり⑥体験・経験に分類した。「創造的な音楽学習」の記述がみられるのはこの1カ所だけである。

3. 平成14年出版教科書：活動のねらい

平成14年出版の教科書及び教師用指導書の記述をもとに、創作活動を含む題材の目標を分類し次の表にまとめた。

表2 平成14年出版 創作活動を含んだ題材のねらい

学年	題材名 (教材名)	創作活動に関する内容	題材の目標 (扱い方例)	分類
1年	あつまれ! おんがくなかま	目標: リズムを感じて表現を楽しむ。	・リズムを感じて表現を楽しむ。	③⑥
	わくわくりずむ なかよしどれみ	目標: ひょうしにに合わせてリズム打ちをし、 音楽を楽しむ。	・2拍子や3拍子の音楽に合わせて、リズム打ちや身体表現をして音楽を楽しむ。	③⑥
	みみをすまして	目標: 音への関心を高める。	・楽器や素材に触れ、音の響きのおもしろさを感じ、音への関心を高める。 ・情景や気持ちを想像しながら、交互唱を楽しむ	①
	おんがくであそぼう	目標: ドレミの音高と名前に親しむ。	(扱い方例) ・題材「わくわくりずむ なかよしどれみ」と関連した扱い ・楽器で即興的に演奏したり、友達のを聴いてまねたりする。	③
	どんなようすかな	目標: 曲の雰囲気にあった音素材を選び表現を工夫する。	・情景を想像しながら、気持ちを込めて表現する。 ・音楽の感じからいろいろな場面や様子を想像して聴く。	②④
	おはなしとおんがく	目標: 登場人物の雰囲気や状況の雰囲気を表す効果音を工夫する。	(扱い方例) ・題材「どんなようすかな」と関連した扱い。 ・役割を分担し、セリフや身振り工夫して音楽劇にする。	②
2年	あつまれ!音楽なかま	目標: 音楽遊び(グリッサンド)を通して、 クリエイティブな音楽性を育てる。	・様子を思いうかべて、歌い方や身振りを工夫して楽しむ。 ・音の強弱や高低を感じ取り、拍の流れに乗って表現して楽しむ。	①②
	わくわくりズム なかよしどれみ	内容: かけ声の音楽づくり	・さまざまなリズムの面白さを感じ、表現して楽しむ。 ・3拍子の拍の流れを感じながら、歌ったり聴いたりして楽しむ。	③⑥
	音楽であそぼう	目標: リズムによって言葉のリズム打ちができる。	(扱い方例) ・題材「わくわくりズム なかよしどれみ」と関連した扱い。 ・言葉のもつリズムに気付き、拍の流れにのせて唱えて楽しむ。 ・順番に音をつなげて、自由なふし作りを楽しむ。	③
	耳をすまして	目標: 音の響きに関心をもって、表現を工夫する。	・音の響きに関心をもって、表現を工夫する。 ・交互に歌ったり、旋律が重なったりする面白さを感じて表現する。	①④
	音楽とお話	目標: 音色や響きに興味を持ち、即興的に表現することができる。	(扱い方例) ・楽器を選んで音型を組み合わせ、音の重なる面白さを見つけたり、イメージをふくらませて表現活動に生かしたりする。 ・朗読、合唱、配役、音楽づくりなどの役割に分かれて音楽劇として取り組む。	①②
3年	子どもの歌めぐり ふしをつくろう		・日本や世界の国の歌や遊びに親しむ。 ・拍の流れによって、遊んだり歌ったりして楽しむ。 ・題材「子どもの歌めぐり」と関連した扱い。 ・音をつなげ、自由なふしづくりをして、日本のふしに親しむ。	③⑥
	耳をすまして ばんそうをつくろう		・ふしや伴奏を重ねたり、追いかけたりする音楽を楽しむ。 ・バイオリンやチェロの音楽を楽しむ。	③⑥
	みんなのアンサンブル		・楽器やパートを選んで、アンサンブルを楽しむ。 ・声や楽器の音色の組み合わせを工夫して表現する。	①⑤⑥
	お話と音楽	目標: 雪物語の音楽づくりを楽しむ。	(扱い方例) ・歌唱、語り、音づくりによる、総合的な音楽表現を楽しむ。	②
4年	(お祭りの音楽をつくろう) 日本の太鼓の音楽	目標: 太鼓を用いて、リズムづくりを楽しむ。	(扱い方例) ・題材「お祭りや民ようをたずねてみよう」と関連した扱い。	⑤
	(音楽でえがこう)		(扱い方例) ・歌唱、せりふ、音づくりによる、総合的な音楽表現を楽しむ。 ・言葉のリズムを生かした音づくりを楽しむ。 ・「北風」のイメージを軸に、表現と鑑賞を関連させて扱う。	②
	(音楽ランド)	目標: 音楽の特徴や良さを感じ取り、いろいろな表現を楽しむ。	(扱い方例) ・題材「音楽パーティー」と関連した扱い。	④⑥
	音の重なり		・旋律と和音や低音がつくる音の響きを感じ取って表現する。	③
	豊かな表現		・楽曲の特徴や曲想を感じ取って、表現に生かしたり、鑑賞したりする。	④
5年	(音楽でえがこう)	目標: 雨のイメージに合う音や音楽を、自由な発想で即興的に表現する。	・イメージを広げ、協力して音楽をつくって楽しむ。 ・音型を基に構成を練り上げ、響きを聴き合いながら表現して楽しむ。 ・「雨」のイメージを軸に、表現と鑑賞を関連させて扱う。	②
	(おまつりの音楽をつくろう)	目標: 太鼓を用いてリズム打ちやリズムづくりを楽しむ。		⑤
	すてきなアンサンブル		・声や楽器の響き合いを味わって表現する。 ・いろいろな旋律やリズムの組み合わせを工夫して表現する。	⑤
	(音楽ランド)		・題材「日本の音楽めぐり」と関連した扱い。 ・行事などの演奏曲目としての扱い。 ・リズムや節の感じを生かし、強弱などを工夫して合奏を楽しむ。	③④⑥
	(すてきなアンサンブル)	内容: シンセサイザーとコンピュータを使った音楽づくり	・声や楽器の響き合いを味わって表現する。 ・いろいろな旋律やリズムの組み合わせを工夫して表現する。	⑤
	音楽のよろこび		・気持ちを込めて表現する喜びや、音の響き合う美しさを味わう。	⑥
6年	(音楽でえがこう)	目標: 海のイメージに合う音楽を自由な発想でつくり、表現する楽しさを味わう。		②⑥
	豊かな表現	内容: カノンの合奏	・豊かな音楽の表現の多様性を味わう。 ・楽器の響き合いの美しさを味わったり、曲想を感じ取ったりして表情豊かに表現する。	④⑥
	(世界の音楽にチャレンジ)	内容: アフリカのリズムに合わせて合奏をする。	(扱い方例) ・題材「音楽の旅」と関連した扱い。 ・外国のリズムや音楽に触れ、その音楽の特徴を感じ取る。	⑥
	(音楽ランド)	内容: 「君をのせて」の合奏	(扱い方例) ・題材「豊かな表現」と関連した扱い。 ・音の重なりを楽しみながら、工夫して表現する。	④

指導目標の文には、複数のねらいが含まれているものもある。リズムや旋律といった構成を工夫するのは、⑤音楽づくりとした。ただし、目標に「音楽づくり」と書かれている2年生の題材「お話しと音楽」は、活動の内容から判断して②音づくりに区分する。「味わう」「感じ取る」といった記述は⑥体験・経験に含むものとする。特徴的な内容として、4年生では『北風小僧の寒太郎』を通して歌唱、台詞、音づくりによる総合的な音楽表現の活動が行われる。

次に各学年に含まれる項目数をグラフで示す。

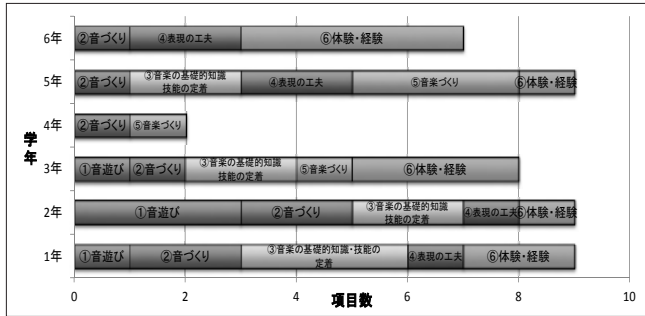


図2 各学年におけるねらいの内訳

全学年を通して、②音づくりの活動がみられる。また、④表現の工夫と⑥体験・経験をねらいとする活動が幅広い学年においてみられる。①音遊びの活動は、1～3年生。⑤音楽づくりの活動は3～5年生の限定的な扱いになっている。

4. 平成23年出版教科書：活動のねらい

平成23年出版の教科書及び教師用指導書の記述をもとに、創作活動を含む題材のねらいを分類し以下の表にまとめた。

表3 平成23年出版 創作活動を含んだねらい

学年	題材名	学習のねらい	【共通事項】	分類
1年	こんにちはけんぱんハーモニカ	どれみのおとであそぼう		⑥
		おれみふあそのおとであそぼう		⑥
	いい おと みつけて	みみをすまして おとを さがそう	音色・強弱	①
		うたにびつたりのおとをみつけよう	音色・強弱	②
	ようすをおんがくで	どうぶつのようなうたやがきであらわそう	音色・速度・強弱	②
		おもちゃのようすをそうぞうしながらきよくにあわせてみぶりをしよう	反復・旋律・音色	④
2年		オプション/おとのスケッチ/ほしの おんがくを つくろう	旋律・問いと答え	⑤
		オプション/音楽ランド		⑤
		オプション/どんな 音が きこえるかな		①
		オプション/音のスケッチ/虫の声をつくろう	音色・リズム・問いと答え・強弱	②
		オプション/音のスケッチ/おまつりの音楽をつくろう	リズム・拍の流れ・問いと答え	⑤
		オプション/音のスケッチ/おまつりの音楽をつくろう	リズム・拍の流れ・問いと答え	⑤
ようすを音楽で	どんな感じで歌おうかな/もつとあそぼう	音色・リズム・反復・強弱	④	
	オプション/みんなの 音楽時計を つくろう	音色・強弱	⑤	
3年		こんにちは リコーダー/シラソの音で遊ぼう		⑥
		リズムによって歌や楽器を合わせよう	リズム・反復・音の重なり	③
		オプション/音のスケッチ/アフリカの音楽で遊ぼう	リズム・反復・音の響き・旋律	⑤⑥
		オプション/音のスケッチ/森のイメージから音楽をつくろう	音色・強弱・速度・旋律	②
4年	お祭りや民ようめぐり	オプション/音のスケッチ/川のイメージから音楽をつくろう	旋律・リズム・しくみ・音色	②
		おはやしや民ようを楽しもう/おはよしのリズムやせりつで遊ぼう	リズム・旋律・音階	⑤⑥
		オプション/音のスケッチ/音階から音楽をつくろう	音の響き・音階 くり返し・旋律	⑤
		五音音階(さくらさくら・ソーランぶし・沖永良部の子もり歌) 六音音階(まつりうた) 七音音階(エーアルワイス・ラパースコンチェルト)	音色・強弱・速度	
5年	音楽の旅	私たちの国の民ようや子守歌に親しもう/沖繩の旋律で遊ぼう	音階・音色	⑤⑥
		オプション/音のスケッチ/インターロッキングの音楽にチャレンジ	反復・音の重なり 変化・追いかけて	⑤
6年	物語と音楽	オプション/音のスケッチ/海のイメージから音楽をつくろう	せん律・音色・縦と横の関係 強弱・速度・反復・変化	② ⑤
		じゅんかんコードから音楽をつくろう		⑤

低学年では⑥経験・体験を単独としたねらいになっているが、中学年では楽しみながら音楽をつくるといった⑤音楽づくりと⑥経験・体験がセットになったねらいみられるようになる。

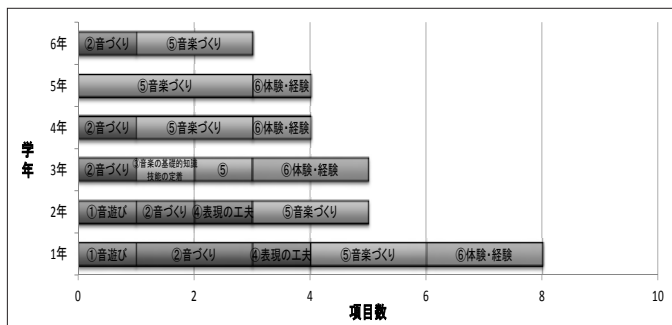


図3 各学年におけるねらいの内訳

すべての学年で⑤音楽づくりが行われている。また、②音づくりや⑥体験・経験も幅広い学年にわたってみられる。一方、①音遊びや④表現の工夫は1・2年生、③音楽の基礎的知識・技能の定着は3年生のみと限定的な扱いとなっている。学年が上がるに従って、創作領域が含まれる題材のねらいが、つくことに集約されている。

IV. 活動のねらいの比較

平成4年出版、平成14年出版、平成23年出版の教科書における創作活動を含んだ題材のねらいについて比較すると、大きく3つの特徴がみられる。1つめに、全学年に渡って継続的に求められているねらいは各出版年によって異なり、平成4年版では③音楽の基礎的な知識・技能の定着と④表現の工夫、平成14年版では②音づくり、平成23年出版では⑤音楽づくりとなっている。また、扱わなかったり一定の時期における限定的な扱いとなっている項目としては、平成4年・平成14年では⑤音楽づくり、平成23年では②音づくり、③音楽の基礎的な知識・技能の定着、④表現の工夫が挙げられる。2つめに、各出版年で共通してみられることとして①音遊びをねらいとする活動が、1～2・3年生の学年が低い段階での限定的な扱いとなっていることがある。3つめとして、平成4年から平成23年までのねらいの推移をみると④表現の工夫及び⑥体験・経験についての記述は年々減少しているのに対して、⑤音楽づくりは増加していることがみられる。

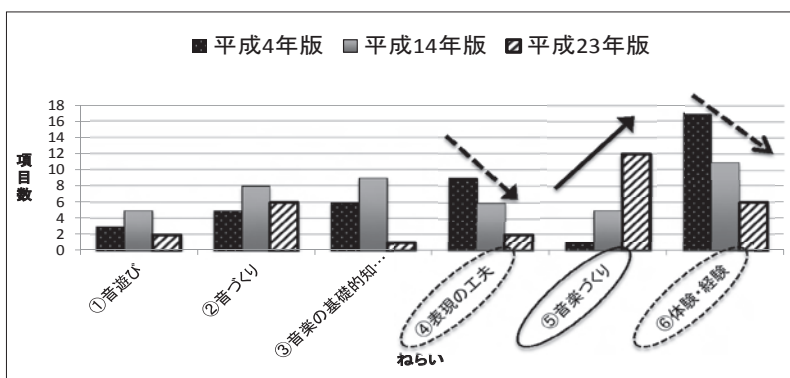


図4 各出版年におけるねらいの比較

V. おわりに

本稿では、平成元年以降に出版された小学校音楽科教科書を対象として、創作活動の目標やねらいについて明らかにしその変遷をたどることを目的とした。目標やねらいを明らかにするにあたって、①音遊び（音、音色に対する感覚を養う）②音づくり（効果音）③音楽の基礎的な知識・技能の定着 ④表現の工夫 ⑤音楽づくり（ふしづくり・リズムづくり）⑥体験・経験の6つに分類し、各年の傾向を比較した。小学校6年間において継続的に求められているねらいが、各出版年において重視されていると仮定すると、出版年によって創作活動において重視しているねらいが異なることが明らかとなった。平成4年版では「表

現の工夫」をねらいとする活動が継続的にみられる。平成 14 年版になると 1 学年での扱い数は多くないものの「音づくり」をねらいとした活動が、すべての学年で行われている。一方、平成 23 年版ではそれ以前に比べ「音楽づくり」をねらいと明記した活動が全学年を通して行われ増加が著しい。これは、平成 4 年版・14 年版では演奏による表現の工夫やイメージを音で表現するなどのねらいのなかでリズムづくりや音づくりが行われてきたが、平成 23 年版ではふしづくりやリズムづくりといった、つくることそのものをねらいとしたなかで、創作活動が行われるようになってきたことを意味している。つまり、創作活動に関わる内容は、何らかの能力を伸張させることを目的とする手段的なものと、創作する行為自体を重視する目的的なものとに分類することができ、近年は、創作するという行為をねらいとして重視する傾向が明らかになった。

今回は、平成元年改訂の学習指導要領に準拠した教科書以降を扱った。今後の課題として「つくって表現する」活動が導入される以前のねらいについて、対象を広げて検討していきたい。

註

- 1) 「つくって表現する活動」が明記された学習指導要領の第 6 次改訂の 1989 年 4 月号～2011 年 3 月号までの 22 年間に雑誌『教育音楽』に掲載されてきた創作領域に関わる事例は 293 件にのぼるとしている（味府ほか 2011, p.98）。
- 2) 学習指導要領の第 7 次改訂に際し、授業時数が削減され時間的な制限が加わった。
- 3) 島崎は音楽づくりの 3 つのタイプと 11 種類の表現を主張してきたが、現在は 5 つの種類と 13 種類の遊びや表現のタイプの分類を提案している。
- 4) 創造的音楽学習について、坪能（2004）は「子どもを音楽を生みだす存在として認識し、自ら音を探し、自由に創作する活動を音楽教育のなかに位置づけたもの」と定義している。

引用・参考文献

- 味府美香、駒久美子（2011）「雑誌『教育音楽』に見る音楽づくりとサウンド・エデュケーションの広がり」と変容—1989 年度からの小学版を俯瞰して『音楽教育実践ジャーナル』第 9 巻, pp.98-109。
- 松永洋介（2007）「小学校音楽科教科書における創作領域教材の研究—学習指導要領における「A 表現内容（4）」の項目「イ」を中心に—」『岐阜大学教育学部研究報告』第 52 巻, 第 2 号, pp.35-48。
- 宮野モモ子、本多佐保子（2009）『小学校音楽科教育法—創造性あふれる音楽学習のために—』教育出版, pp.103-111。
- 三善晃ほか（1992）『新版 おんがく 1 教師用指導書指導編』教育出版。
- 三善晃ほか（1992）『新版 おんがく 1 教師用指導書研究編』教育出版。
- 三善晃ほか（1992）『新版 音楽 2 教師用指導書指導編』教育出版。
- 三善晃ほか（1992）『新版 音楽 2 教師用指導書研究編』教育出版。
- 三善晃ほか（1992）『新版 音楽 3 教師用指導書指導編』教育出版。
- 三善晃ほか（1992）『新版 音楽 3 教師用指導書研究編』教育出版。
- 三善晃ほか（1992）『新版 音楽 4 教師用指導書指導編』教育出版。
- 三善晃ほか（1992）『新版 音楽 4 教師用指導書研究編』教育出版。
- 三善晃ほか（1992）『新版 音楽 5 教師用指導書指導編』教育出版。
- 三善晃ほか（1992）『新版 音楽 5 教師用指導書研究編』教育出版。
- 三善晃ほか（1992）『新版 音楽 6 教師用指導書指導編』教育出版。
- 三善晃ほか（1992）『新版 音楽 6 教師用指導書研究編』教育出版。
- 三善晃ほか（2002）『小学音楽 おんがくのおくりもの 1 教師用指導書指導編』教育出版。
- 三善晃ほか（2002）『小学音楽 おんがくのおくりもの 1 教師用指導書研究編』教育出版。
- 三善晃ほか（2002）『小学音楽 音楽のおくりもの 2 教師用指導書指導編』教育出版。
- 三善晃ほか（2002）『小学音楽 音楽のおくりもの 2 教師用指導書研究編』教育出版。
- 三善晃ほか（2002）『小学音楽 音楽のおくりもの 3 教師用指導書指導編』教育出版。
- 三善晃ほか（2002）『小学音楽 音楽のおくりもの 3 教師用指導書研究編』教育出版。

- 三善晃ほか (2002) 『小学音楽 音楽のおくりもの4 教師用指導書指導編』 教育出版。
- 三善晃ほか (2002) 『小学音楽 音楽のおくりもの4 教師用指導書研究編』 教育出版。
- 三善晃ほか (2002) 『小学音楽 音楽のおくりもの5 教師用指導書指導編』 教育出版。
- 三善晃ほか (2002) 『小学音楽 音楽のおくりもの5 教師用指導書研究編』 教育出版。
- 三善晃ほか (2002) 『小学音楽 音楽のおくりもの6 教師用指導書指導編』 教育出版。
- 三善晃ほか (2002) 『小学音楽 音楽のおくりもの6 教師用指導書研究編』 教育出版。
- 三善晃ほか (2011) 『小学音楽 おんがくのおくりもの1 教師用指導書指導編』 教育出版。
- 三善晃ほか (2011) 『小学音楽 おんがくのおくりもの1 教師用指導書研究編』 教育出版。
- 三善晃ほか (2011) 『小学音楽 音楽のおくりもの2 教師用指導書指導編』 教育出版。
- 三善晃ほか (2011) 『小学音楽 音楽のおくりもの2 教師用指導書研究編』 教育出版。
- 三善晃ほか (2011) 『小学音楽 音楽のおくりもの3 教師用指導書指導編』 教育出版。
- 三善晃ほか (2011) 『小学音楽 音楽のおくりもの3 教師用指導書研究編』 教育出版。
- 三善晃ほか (2011) 『小学音楽 音楽のおくりもの4 教師用指導書指導編』 教育出版。
- 三善晃ほか (2011) 『小学音楽 音楽のおくりもの4 教師用指導書研究編』 教育出版。
- 三善晃ほか (2011) 『小学音楽 音楽のおくりもの5 教師用指導書指導編』 教育出版。
- 三善晃ほか (2011) 『小学音楽 音楽のおくりもの5 教師用指導書研究編』 教育出版。
- 三善晃ほか (2011) 『小学音楽 音楽のおくりもの6 教師用指導書指導編』 教育出版。
- 三善晃ほか (2011) 『小学音楽 音楽のおくりもの6 教師用指導書研究編』 教育出版。
- 文部科学省 (1989) 『小学校学習指導要領 解説—音楽編—』 教育芸術社。
- 文部科学省 (1998) 『小学校学習指導要領 解説—音楽編—』 教育芸術社。
- 文部科学省 (2009) 『小学校学習指導要領 解説—音楽編—』 教育芸術社。
- 島崎篤子 (2005) 「子どもの創造性に着目した学習—日本における創作学習の変遷—」『音楽教育史論叢 第Ⅲ巻 (下) 音楽教育の内容と方法』 開成出版, pp.348-375.
- 島崎篤子 (2014) 「かかわる力を生かし学ぶ力を伸ばす音楽科指導 音楽あそび・音楽づくり」第52回 東雲学友会 音楽講習会資料。
- 坪能由紀子 (2004) 「創造的音楽学習」, 日本音楽教育学会編 『音楽教育事典』 pp.535-536。